

非核石川の会ホームページを開設

<http://hikakuishikawa.com/>

非核の政府を求める石川の会公式サイト



“核兵器と原発のない世界”をめざす

非核の政府を求める石川の会

お問い合わせ | サイトマップ

サイト内検索

検索



非核石川の会とは 非核・平和の情報 会の活動紹介 自治体情報 メッセージ リンク集

会報 非核・いしかわ

非核の政府を求める石川の会へようこそ

ようこそ、非核の政府を求める石川の会ホームページへ

非核の政府を求める石川の会は、2014年4月25日ホームページを公開しました。国内外の非核・平和に関する情報ツールとして随時更新していきます。みなさんのご支援をお願いします。

第26回総会記念 非核・平和・沖縄のつどい

非核の政府を求める石川の会第26回総会記念

非核・平和・沖縄のつどい

「やんばるの森 東村・高江のたたかい」
へりパッドいらない住民の会 清水暁氏

・2014年6月1日(日) 13:30~15:00

・石川民医連会館3階会議室

・参加費 500円

*講演終了後、第26回総会を行います。

> 詳しい告知書【PDF: 450KB】



・「非核・いしかわ」紹介

広島被爆絵画



政治の世界で用語偽装が流行っている。医療保険の分野では「規制緩和」によって「選定療養費制度」が狙われている。医師・患者間にある情報格差を無視して「患者同意」を謳い、新たに開発した技術の応用で公的医療保険の効かない領域を作って国民皆保険制度を崩そうとしている。米国式の民間保険跋扈の恐怖が見え隠れする事態だ。とても一言では説明できない複雑な事柄を詐欺まがいの言い回しで潜り抜けようというのか。▼安倍政権が強行しようとしている「集団的自衛権」の行使容認もその最たるもの。自国外の場所で、自国が侵害されてもいないのに同盟国と一体となって戦闘行為に参加することまで「自衛権」と呼べるのか。また「積極的平和主義」も、軍事の脅しによって平和が保たれるという論理に拠るが、とても平和主義とは言えない。▼問題は、これらの言い回しが堂々と政界で通用し、メディアの中で有効な反論が聞こえないこと。「戦後レジーム」を根っから嫌悪している勢力に、戦後の平和と民主主義を肯定する圧倒的国民の声を結集して思い知らせたい。分かりやすく、広めやすい、言葉による「スローガン」を考えよう。(I)

非核・いしかわ

非核の政府を求める石川の会 会報

事務局

〒920-0848

金沢市京町 28-8

石川民医連労働組合気付

Tel 076-251-0014

郵便振替口座

00760-0-15689

非核 5 項目

- ① 全人類共通の緊急課題として核戦争防止、核兵器廃絶の実現を求める。
- ② 国是とされる非核三原則を厳守する。
- ③ 日本の核戦場化へのすべての措置を阻止する。
- ④ 国家補償による被爆者援護法を制定する。
- ⑤ 原水爆禁止世界大会のこれまでの合意にもとづいて国際連帯を強化する

◇講演要旨◇

「安倍改憲政権の正体」

講師：ジャーナリスト 斎藤貴男



主体性をもって9条
の精神を本物にして
いくことが大切と話
された斎藤貴男さん

私は保守的なジャーナリズムからスタートしましたが、かつては今と違って保守らしい鷹揚さがあつたと感じていました。九条をめぐるメディアの論調は大きく二つに分かれています。「安全保障の環境がかつてなく悪化しているから」としていますが、単純なものではありません。仮に「限定的」というような制約を設ければ集団的自衛権は容認できると定めたとしても、ひとたび認めてしまえば、武力行使を厭わない立場に自ら立つことになるのです。

昨秋、日経新聞とCSIS（戦略国際問題研究所）の合同のシンポジウムで、そこで安防懇（安全保障と防衛力に関する懇談会）や米国のメンバーたちは、実に衝撃的なことを語っていたのです。「いま米国は国外の紛争にできるだけ干渉しなくなっている。しかし世界の憲兵としての米国の役割は変わらない。ここは日本の出番である。」と語り、それに対して日本側は「これから日本は軍事を強化して米国と一緒にやりましょう。」という趣旨で応え、米国側は大歓迎しているのです。そのようなシンポジウムに観客は拍手喝采しているという状況を目にして、私は愕然としました。

安倍首相は、安政法制懇（安全保障の法的基盤の再構築に関する懇談会）や安防懇など複雑な経緯を経て、ハドソン研究所というシンクタンクで「積極的平和主義」を掲げました。

平和学において「積極的平和主義」とは、元来は単なる国家間の戦争や地域紛争がなく、貧困や差別などがない状況を積極的に志向する主義を指しています。しかし安倍政権が使用しているものは平和学における使い方ではないところが問題なのです。多国籍企業が好き勝手に金儲けができる状態が平和であり、これを阻害する者を殲滅することが平和活動であり、従つてそのための武力行使は戦争とは言わず平和活動という、となりませう。

安政法制懇と安防懇の両方に参加している人物は二人いて、その一人の出版物に「倫理的な戦争」があり、「善の力」を振るうのであればやむを得ない、という考え方を研究したものです。

すずむ在日米軍再編

私は法律の話は好きではないのです。憲法はお上が作ったものという気持ちがあり、期待する気が起きないからです。しかしジャーナリストとして違ふものは違ふと言わねばなりません。というのは今の憲法問題を考える時に、条文ばかり見るからつまらないのです。実際に起こっていることは在日米軍再編なのです。首都圏にある三つの在日米軍司令部と自衛隊司令部が限りなく一体化しています。いま新ガイドラインの改定の時期を迎え、更に拍車がかかっています。私が会った保守系の政治家は口を揃えて「なぜ斎藤さんは米軍と自衛隊は別のものだと考えているのか」と言っています。いま日本が米国の

戦争に簡単には一緒に行動しないのは、九条の存在だけが歯止めになっているのです。だからこそ米国の戦争に本気で手伝う気がない限り、九条は解釈であれ明文であれ、絶対に変えてはいけません。

格差社会は格好のしかけ

日米一体化は軍事面だけではありません。主権在民、戦争放棄、平等などが今、根底から覆われています。終身雇用が崩れ、非正規雇用が四割程度で、若年層や女性に限ると六割を超えています。経営層は近い将来、一握りのエリートを除けば全て派遣労働者という方向になる、と言っています。目指すところは米国と同じような1%の富裕層と残り99%の奴隷的労働者という社会です。そうなったら軍事に関するものの見え方が変わってきます。日本でも貧困のために自衛隊に入る若者がいますが、支配層はこれをもっと円滑なものにしようとしています。できれば徴兵制は避けながらも、若者がやむなく入隊してくる社会を作りたいのです。志願してくるのだから、自己責任で通せるわけです。格差社会は格好のしかけです。雇用改革、教育改革、社会保障改革、大学改革、公務員制度改革などに共通しているのは、恵まれた人にとっては好都合だが弱い立場の人にとっては、今までかろうじて認められていたチャンスさえ認められないということです。ヘイトスピーチを叫ぶ若者にはこのような閉塞状況があることは否定できません。この状況であれば、兵士はいつでも調達できるわけです。

構造改革はよく自己責任原則とか競争原理とかいいいます。負け組は努力や才能がないから仕方がないと思わされています。いま成人になる人は殆ど自

己責任論を刷り込ままされています。平等のスタートラインから始まるのではなく、格差をごまかし、結果だけで責任を取らされるのが構造改革の正体なのです。でも喰うためには入隊も選択肢となるわけです。事実、米国はそういう社会になって久しいのです。世の中が米国のようになると、戦争への意識も同じになっていかざるを得ないのです。

金儲けのためなら何でもアリ

安倍政権が戦争もできる国にしようとしているのは、米国の家来だからではありません。日本の為政者にも戦争をしたい理由があるのです。グローバル経済のなかで国際競争力を高め、経済成長を広げ続けていくには、戦争が必要なのです。

アベノミクスの三本の矢のうちインフラシステム輸出を成長戦略の切り札として位置付けています。道路・鉄道・空港・都市計画などを全部パッケージとして海外に売り込むのです。この中心に原発輸出があります。これは経済成長を絶対とする下では容認されます。なぜなら日本は少子高齢化で将来の国内需要はジリ貧であり、大企業は外需を求めているのです。成長国に対してインフラシステム全般を輸出して稼ぐことによって日本社会が成り立つという発想なのです。これはずっと政府内であった考え方です。安倍氏はこれに海外資源の権益獲得と邦人の安全確保の二つを付け加えました。ビジネス開発だけでなく危険に巻き込まれる可能性もあるので、国家戦略の先兵として行ってもらおうのだから、国家として守ってあげなければならない、というわけです。日本のインフラシステム輸出は、その国の経済に日本が大きく深く関わることを意味します。

そこから資源も権益も戴こうということになれば、限りなく帝国主義的侵略だと受け取られかねません。だったら軍事的バックアップが必要なので、改憲・自衛隊法改定に結びつきます。

こうして日本は帝国主義的な国家体制をめざしていくことになり、場合によっては武力行使を辞さない体制を予め整備しておく。これが安倍政権であり、米国が求める軍事的貢献となるわけです。ただ単に戦前回帰という文脈で捉えては間違っています。グローバルゼーションと米国主導の世界秩序の中の極東のパートナー、米国の衛星・平成「ポチ」帝国日本でいたいのです。どちらにしても虎の威を借る狐であり、最も恥ずかしいことです。

第一次安倍政権は『美しい国へ』第二次では『新しい国へ』を出版し、私は実際には「恥ずかしい国へ」だと思っております。安倍氏は押しつけ憲法からの脱却を図りたいのですが、これは米国が許さない。米国は日本が九条を捨てて手伝いをしてほしいのだけど、いわゆる自主憲法を持つてはもらいたくない。けれどもさすがに明文改憲は難しいので、今は解釈改憲となっているだけなのです。

安倍氏は一般的な方のイメージする日本の独立を願う右翼民族派と随分異なり、保身のためだったら何でも米国の言うとおりにし、世の中の仕組みは勿論、日本の若者も米国の戦争のために差し出す人物なのです。ただそれはそれで辛いわけで、どこで自分のアイデンティティーを求めるといって、九条は元々米国から押し付けられた部分は否めないが、米国にとっても厄介な存在なので、もう我々自身が獲得したものと変えてしまうことで新し

い日本を創る、というところに求めているのです。

九条を本物にしていく発想を

これからは過去と同じではなく一旦、そもそも九条は本当に機能していたのか考えなおす必要があります。日本経済は様々な有利な状況にのって経済大国になりました。朝鮮特需、ベトナム特需、対米輸出、これらによって戦争は儲かるという潜在的な意識もひろまり、間違っても東側に行かないような意識づけがなされました。ですから九条は、本来の趣旨として機能していたのではないのです。これからは米国の都合ではなく私達のものとして、九条を本物にしていく発想が求められると思うのです。

自民党の改憲草案は一昨年四月二七日に発表されました。それは安倍内閣が定めた「主権回復の日」とされる四月二八日に因みます。自民党の憲法改正本部の方に「斎藤さん、あなたは米国従属以外の道があると思っているのか」と逆に言われました。これは自民党のかんりの人たちの共通部分ですが、とても不健康だと思えます。しかしこれからは主体性をもって九条の精神を本物にしていくことだと思っております。

経済成長は大切ですが、手段として位置付けた上で、皆が幸せになるという目的に沿った在り方を求めたいものです。属国ではなく私達のアイデンティティーの下で九条の精神を創っていくべきではないでしょうか。今までと同じ繰り返しでいいという時代ではないということをし添え、今後の運動の参考にして頂けたら幸いです。（文責 編集部）
◎本稿は五月三日、本多の森ホールで行われた平和憲法施行六七周年記念県民集会での講演要旨です。

NPO法人はだしのゲンをひろめる会 第二回総会を開く

各界著名人から応援メッセージ

五月一八日、NPO法人「はだしのゲンをひろめる会」(以下、ひろめる会)の第二回総会が金沢市近江町交流プラザで開かれました。

初年度はホームページの開設、『はだしのゲン』紙芝居CDの普及、「ゲン」に縁のある方々にひろめる会の「呼びかけ人」を依頼するなど会の基盤づくりを進めてきました。各界の著名人に依頼した「呼びかけ人」には、次の一〇人の方に承諾していただきました。

(呼びかけ人)

前広島市長 秋葉忠利氏、映画監督 石田優子氏、日本被団協代表委員 岩佐幹三氏、歌手 加藤登紀子氏、講師 神田香織氏、前広島平和文化センター理事長 ステイブ・リーパー氏、女優 長内美那子氏、女優 柳川慶子氏、女優 山口果林氏、女優 吉永小百合氏

(会に寄せられた応援メッセージ)

○あの日、原爆孤児になった私には、ゲンは他人事とは思えません。ゲンはさまざまな被爆者の苦悩と重荷を背負って原爆被害とたたかい続けたシンボルの存在だと思えます。「核兵器のない世界」を築くためにも国の内外に広く普及されることを願っています。(日本被団協代表委員 岩佐幹三)

○『はだしのゲン』の生きることへの強い思いを、是非これから生きる世代に伝えたい!(歌手 加藤登紀子)

○私は『はだしのゲン』を講談にして今年で二八年語っています。子どもがたくましく生きていくためには欠かせない「教材」だと思っています。それを教育委員会が閲覧制限する時代となつてしまいました。時代が大きく変化し始めています。中沢さんの意思を継ぎ、『はだしのゲン』をさらに広げていきましょう!(講師 神田香織)

○核兵器廃絶、原発即時ゼロを願う思いを伝えるのに『はだしのゲン』を読んでもらう、映画、演劇、音楽、絵画を介して思いを伝える道は色々あると思います。この行動は休んではいけないのです。大人から子供まで常に自分の問題として行動してもらえよう皆様各々の表現で継続してください。私は『夏の雲は忘れない』の朗読劇を細く永く継続したいと願っています。(女優 柳川慶子)

○世界中の子供たちが瑞々しい目で『はだしのゲン』と向き合い、感じてほしいと心から願っています。(女優 山口果林)

*総会の詳しい報告は同会ホームページ(<http://hadashingen.jp/>)に掲載されます。

非核平和の海外情勢

軍縮・不拡散(NPT) 広島外相会議

「広島宣言」について

四月二五日、非核の政府を求めると会常任世話人会が開かれ、原和人常任世話人会の報告がありました。その要旨を紹介します。

◇ ◇ ◇
四月一日〜二日、第八回軍縮・不拡散イニ

シアチイブ(NPT)の外相会議が、日本で初めて被爆地広島で開催され、一カ国(*)が参加した。

核兵器に対する三つの態度

現在、世界の国々は、核兵器に対して、大まかに三つのグループに分類することができる。

一つは米ロを中心とする核兵器保有国で当面核兵器による世界秩序を維持しようとする国である。二つ目は核戦争による被害者を再び生み出さないとする非同盟諸国を中心とする国である。

三つ目は日本など核兵器を保有していないが、軍事同盟などで核兵器保有国の核の傘の下にある国々である。

原爆資料館で被曝の実相に

今回、各国の外相が原爆資料館などの被曝の実相にふれたことにより、核兵器の非人道性に関する論議が深まったとの新聞報道があった。

「広島宣言」の評価

「軍縮・不拡散イニシアチイブ第八回外相会合広島宣言」が発表された。核兵器の廃絶に向けてのNPTの国々の努力は歓迎しながらも、この「広島宣言」の問題点も少なくない。

(1) 核兵器の非人道性について

「広島宣言」は、「今日に至るまで続いている原爆の破壊的で非人道的な結末を直に目撃し、原爆の生存者(被爆者)の証言に非常に深く心を動かされた」と述べているが、「非人道的な結末」という一言で語るのではなく、核戦争がどのような結末をきたすのかという具体的な事実がもう少し語られてもよかった。

今年二月のナヤリットの会議の議長総括は、その非人道性が具体的に述べられた。それは「いかなる国家あるいは国際機関であろうと、核兵器爆発が起きた際に適切に対応し、必要とされる短期及び長期的な人道援助や防護を提供する能力を持たないということである」と述べている。

今回の広島会議でも、現代の百万都市に、一六キロトンの広島型原爆と、一メガトンの水爆が投下された場合のシミュレーションがあり、近代化された都市においては六九年前のヒロシマ、ナガサキをはるかに上回る被害が予測された。NPD Iに参加した各国の外相は、自ら見聞きした「非人道的な結末」を「広島宣言」に盛り込んだなら、核兵器廃絶に向けてより強いメッセージになったに違いない。

(2) 核兵器不使用の記録が永久に続けられること
「広島宣言」には、「全ての国に対して、あらゆる核兵器の使用の潰滅的で非人道的な結末に対し深い懸念の表明を求め、約六九年に及ぶ核兵器不使用の記録が永久に継続することは全ての国々にとって利益である」と述べられている。これに続いて「従って、核兵器が再び使用されることがないよう核兵器の使用を禁止する核兵器条約の交渉の開始を速やかに行うべきである」とコミットするのが論理の流れであるが、この「広島宣言」には、核兵器条約に関する言及が一言もない。

別の見方をすれば、約六九年、核兵器が使われなかった理由は「核兵器の抑止力」によるものであり、「核兵器不使用の記録を永久に続ける」ためには、引き続き核兵器の存在を肯定するものと理解されなくても不思議ではない。核兵器が六九年間使用されな

かった理由は、全くの偶然の幸運であったことは、様々な歴史の事実が証明している。

(3) ウィーンの会議の計画につき、さらなる論議が行われること

「広島宣言」は、オスロからナヤリットに至る「核兵器の非人道的な結末に関する知見を深めること」を歓迎し、「オーストリア政府が、ウィーンで次の会議を開催する提案に、さらなる論議が行われることを期待する」と述べている。

この表現も微妙な表現である。ナヤリットの議長総括では、「次回のオーストリアでの会議を熱烈に歓迎し、過去において、さまざまな兵器が法的に禁止されたのちに廃絶されたことを考慮に入れる必要がある」と述べている。すなわち、核兵器の非人道的な結末の事実から、法的な枠組みを論議すべきであるとして、具体的な方向性が示されている。

これに対して、日本国政府は、「(このような法的な枠組みが論議されるようになる)と、我が国として如何なる対応をとるべきか、検討する必要がある」とし、日本国政府の態度は、核兵器条約のような法的な枠組みに話が進むのであれば、参加しないこともあり得ると脅しをかけているようにもとれる。

以上のような問題はありながらも、NPD Iの会議においても、「核兵器の非人道的な結末」が中心に論議されたことは歓迎したい。この「核兵器の非人道的な結末」の探究の「結末」は、核兵器は国際人道法に違反し、核兵器の使用は決して許されるものではないとの結論以外にはあり得ないと確信するからである。

*一ニカ国は日本、オーストラリア、ドイツ、ポーランド、オランダ、カナダ、メキシコ、チリ、トルコ、UAE、ナイジェリア、フィリピンの各国。他にゲスト国が参加。
(文責は非核・いしかわ編集部)

非核石川の会 リレーエッセイ

ユース・合唱団が歌う

近松 美喜子

「輝け九条！許すな改憲！平和憲法施行六七周年記念石川県民集会」が五月三日、本多の森ホールでおこなわれた。この日のために県内で活動している合唱団、合唱サークル、愛好家が自主参加して約七〇名。重ねた合同練習一二回。憲法九条や平和への思いを込めた七曲に声を合わせました。

しかし、連休明けに飛び込んできたニュースは、憲法改憲への環境を整えるための手続法改定案が、自民、公明、民主、維新、みんな、結い、生活の七党によって強行採決、可決されたというもの。すでに政府はこれまで認めてこなかった「集団的自衛権」の行使も自らが憲法解釈を変更して道を開こうとする「解釈改憲」への動きを強めている。

そもそも憲法は国家権力による武力行使の過ちを深く反省し、「政府の行為によって再び戦争の惨禍が起こることのないようにすることを決意し、ここに主権が国民に存することを宣言し」確定されたものである。憲法は時の権力者の身勝手な解釈改憲を幾重にも禁じているのです。

九・一一同時多発テロや、世界のどこかで起こっている内戦に心痛めた広島の中三・三有有志が作

った歌「ねがい」が心に響きます。

♪もしも この頭上に 落とされたものが

ミサイルではなく本やノートであったなら

無知やへんけんから 解き放たれて

君は戦うことを止めるだろう

もしも この足もとに 植えられたものが

地雷ではなく小麦の種であったなら

飢えや争いに苦しまないで

ともにわかちあつて 暮らすだろう

この本質を的確にみつめ中学生らしい感性で
平和への思いを強くこめたこの曲は、瞬く間に世界
に広がり三〇数カ国の言葉で二〇〇〇を超える歌
詞が作られ、世界中に歌い広められています。

♪もしも 一つだけ 願い かなうならば

戦争捨てて 世界に愛と平和を

この願いかなうまで

私たちは歩み続けることを やめないだろう

この子どもたちの願いに応え手をつないで歩く
大人の決意が強く問われている、とあらためて強く
感じました。

「いしかわの山が…」

土田久行

三〇四月と山菜のシーズンが開幕した。高齢を顧
みず近山の「ふきのとう」や「かんぞう」「あさつ
き」から始めた。

里山は山林の労働力も無く荒れ放題が目につき、

昔のような子どもの声が聞こえる山里は蘇らない。

更にイノシシやカモシカ、猿の被害に困っている。

愛鳥家の友人は若葉の季節になると野鳥が山に

戻ってくるというが、自然との共生はきれいごとで

は解決しない。

山で一息入れていると「非核・いしかわ」の原稿

依頼を思い出した：こんな時に思い出すとは…

私は自分の人生体験から今の政治のあり方、消費

増税、原発再稼働、特定秘密保護法、憲法改悪、

集団的自衛権問題、医療・福祉の改悪など国民生活

にとつて受け入れ難い政策が法制化されてきてい

ることを、山の斜面の若葉を見ながら思った。

自分は四〇歳で会社の倒産・全員解雇での争議、

新会社を設立するも再度の経営難で解雇となる。妻

もロックアウト争議を経験し解雇されている。私の

世代にはこうした労働争議の経験者がおられる。

しかし、今の若者が直面している労働環境は正規

雇用どころか非正規労働を、更に新たな法律で非正

規雇用三年の縛りを解除し、そして職種によって残

業代も支払われなくなるという。

自分たちの子どもや孫の世代が心配になる。

若い世代の自死者が多くなっているという。懸命

に労働に励みその代償が契約切れで解雇であった

り、時間外労働賃金の打ち切りであったりでは将来

の希望が見いだせないのは当然である。メーデーに

安倍首相が挨拶をする組織を見て啞然とした。

通勤や通学の若者たちに早朝の交差点から訴え

をしているが、こんな政治を変えるために一人でも

多くの通行人が立ちあがってくれることを・・・山
のカケスに話しかけた。



南京の空にひびく「紫金草物語」

中村昭一

私は何度となく南京・北京・上海を訪れ、紫金草
物語を演奏してきているが、今回もまた新鮮な気持
ちで歌うことができた。この曲の持つ美しさと素晴
らしさが、中国の方の気持ちと響きあっていること
を実感できた。この曲は、海を越えて人と人とが結
び合える不思議な曲だと思つづくと思う。

今回は、現地の若い日本語を学ぶ学生との交流会
が特に有意義だった。このような文化を介した民間
レベルの交流こそ、本来の友好の礎だ。これを忘れ
ずに、「不忘歴史 面向未来」でいたいものである。

平和川柳研究会より

選 岩原茂明

一円をつぶして売れば二円半 茂明

富国とは民の犠牲の上に立つ 雅靖

強兵もひとりひとりの血の努力 雅靖

西村ひろ子さんを偲ぶ

にじいろに送られた君の幸せ 茂明

今君が倒れた跡を我は行く 茂明

詩人会議かなざわ「独標」より

砂時計

池田 珠子

過ぎた時は

地球何周分になるだろう

平等に無条件に制限なしに

誰にでも与えられている

「時間」

時間は長さではなく

重さでもない

貯めておくことも止めることも

貸すことも借りることも出来ない

冷静に目の前を過ぎていく

砂時計の砂のように

「時」は

絶え間なく滑り落ちていく

定時から定時

決められた仕事をこなし

ただいま と帰宅する

安定した暮らしに憧れていた

だけど

罰ゲームのような果てしない日々を

いつそ 小説のように

五年十年後へ早送り出来たら

どんなにか楽だろう と

妊娠中一人おんぶしながら手をつないで
息子との親子リレー

運動会や遠足 祭りに発表会

今日中に入浴出来ないのは何時ものこと

脱衣場で授乳しながら

明け方に目覚める

洗濯物たたみながら夢うつつ

もう こんな時間

毎日 いちにちの 一年の

時の濁流に流されそうになり

いつも時間が足りなくて

もつと時間が欲しかった

アルバムのなかの幸せの記録

家族や仲間が増えていく

責任と周りが拡大していく

数えきれない笑顔の写真

四季の行事 そのたび一瞬の数々

穏やかな時間に紛れて

時計の砂は

後

どれだけ残っているのか

ひたすら望みながら齢を重ね

待っても来ない何かが

突然訪ねてきた

いま 降り注ぐほど

自分だけの

自由な時間

《編集室より》

◎五月の連休明けは、白馬・戸隠に新緑の芽吹きと

共に瑞穂の国を象徴する「大景観」を堪能してきた。

早朝に金沢を出発し、久しぶりの五〇〇^キのドライ

ブだった。▼思えば、この景観に寄せる共通の思い

は、私たちの地域固有の財産であり原風景で、自然

と文化の根底にあるものだが、同じように他の国や

地域にも、それらの固有の自然と歴史・文化があ

るのだから、相互にこれを尊重し合うことが、世界

平和と人類発展につながる道であることへの認識

は、なにもものにも代えがたい歴史の教訓であったは

ずである。▼それにも拘わらず「集団的自衛権」な

どうとそぶき、「海外で殺し合うこと」へ国として

参入する道を開こうとするこの「正当性」を、こ

ともあるうに日本国憲法という平和憲法の「解釈」

を変えて獲得しようとする狙うが政者の醜い姿は、「の

ど元過ぎれば熱さを忘れ」歴史に学べない浅はかさ

をも表している。▼改めて、この大景観に寄せる私

たちの願いとは根底から相容れない逆流であり、看

過できないと思う。(一)

◎今年の原水爆禁止国民平和大行進への支援要請

のため、五月一二日から一五日まで県内全自治体を

訪問した際に、当会から「二〇一四年度平和事業に

関する自治体アンケート」への協力を依頼した。二

〇二〇年までに核兵器廃絶をめざす平和首長会議

への加盟促進と各自治体での非核・平和施策の充実

を求めて総務部長や総務課長らに調査用紙を手渡

してきた。アンケートの集約結果は次号に掲載す

定。ご期待ください。(か)

故清水正明医師の広島被爆絵画シリーズ

⑨ 阿鼻叫喚

ピカドン・・・につづいて（あるいは同時に）
 ガラガラ・・・が来た
 柱は折れ、屋根が落ちて来た
 火の気がないのに障子の紙が燃え出した
 倒れた家の下敷になって 助けを求めるもの
 外へ飛び出して倒れるもの
 血だらけになって ふらふらと逃げ出すもの
 ある者は、下敷きになったままで焼け死んだ
 ある者は逃げる途中で息絶えた
 正に生き地獄であった



輪島市教育委員会所蔵

絵手紙コーナー

背伸びし

金沢医療生協絵手紙班 家 正子



《非核平和・行事予定》

- ・五月二六日(月)一四時：辰巳ダム裁判判決・金沢地裁
- ・五月三一日(土)一三時半～一六時半：メディア総研公開シンポジウム「安倍政権のメディア支配を問う」パネリスト戸崎賢二元NHKディレクター・市川隆太北陸中日新聞報道部長・菅野昭夫弁護士金沢合同法律事務所・砂川浩慶メディア総研所長／立教大学准教授・コーディネーター淡路健民放労連北信越地連委員長・金沢歌劇座大集会室
- ・六月一日(日)一三時半：非核の政府を求める石川の会第二六回総会（詳細は一面掲載）
- ・六月一日(日)：石川県母親大会・石川県女性センター
- ・六月四日(金)：第三二回日朝フィールドワーク「雨森芳州庵（長浜市）・人道の港敦賀ムゼウム（敦賀市）」主催日朝協会石川県支部
- ・六月六日(金)二時：核兵器廃絶署名・Mザ前
- ・六月七日(土)一四時：谷口善太郎顕彰する碑前祭・能美市和気町生家跡地・主催顕彰する会
- ・六月八日(日)～三日(金)：核兵器廃絶国民平和大行進・能登コース（行進予定は実行委員会発表で）
- ・六月一四日(土)：核兵器廃絶国民平和大行進・日本海コース／俱利伽羅で石川県内へ入り二四日(火)：吉崎で福井県へ（行進予定は実行委員会発表で確認を）
- ・六月一四日(土)一七時～一九時：一五年戦争と日本の医学医療研究会「北陸支部研究会」参加自由・近江町交流プラザ四階
- ・六月一五日(日)一三時半：映画「〜放射線を浴びた〜X年後」上映と第五福竜丸展示館学芸員・市田真理さん講演会・石川県女性センターホール・主催核戦争を防止する石川医師の会
- ・六月二一日(土)一六時～一八時：武藤類子講演会「福島を忘れないで」・ワークパル七尾・主催九条の会七尾／のとじよネット／つなぐ希望ネット
- ・六月二八日(土)九時半～一〇時：映画「標的の村」三上智恵監督講演・一〇時～：映画上映・小松市民センター・主催映画上映実行委員会・入場無料
- ・六月二八日(土)一三時半：治安維持法犠牲者国家賠償要求同盟石川県本部総会・金沢勤労者プラザ四階
- ・六月二八日(土)一五時～一七時：映画「標的の村」三上智恵監督講演「沖縄の基地問題と映画制作苦労話」石川県教育会館四階・主催映画上映実行委員会
- ・六月二九日(日)一時～一六時半：九条の会北陸三県交流会・記念講演「いま憲法は句です」講師平山知子弁護士・テーマ別分科会・高岡市ウイング高岡

◎編集部注：祝日は休日(国民の休日)と表記します。